

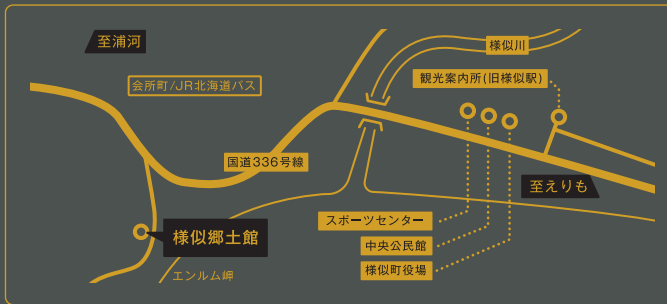
- 1635 寛永12 西様似海辺川の支流で金鉱を発見
幕府により採掘(東金山金鉱)
- 1669 寛文9 シャクシャインの戦いにより金山閉鎖
- 1799 寛政11 様似山道(約7km)完成
エンルムに会所 設置
- 1800 寛政12 「砂馬荷造船所」設置
- 1802 享和2 様似が蝦夷奉行の管下となり
この年を様似の開基とした
- 1806 文化3 等澗院徳川幕府により建立
- 1811 文化8 等澗院護摩堂 竣工
- 1857 安政4 様似神社(住吉神社) 建立
- 1869 明治2 シヤマニ会所 廃止
- 1885 明治18 等澗院 廃寺
- 1897 明治30 等澗院 再興
- 1937 昭和12 日高本線 様似まで全線開通
- 1952 昭和27 町制施行(村から町になる)
アポイ高山植物群落が国の特別天然記念物
に指定される
- 1965 昭和40 等澗院護摩堂を町の重要文化財第一号に指定
- 1967 昭和42 様似郷土館 開館
- 1971 昭和46 第一回アポイの火まつり開催
- 1975 昭和50 ヒメチャマダラセセリ(蝶)国の天然記念物に指定
- 1981 昭和56 日高山脈襟裳国定公園指定
- 1994 平成6 アイヌ古式舞踊(様似民族文化保存会)が
国指定重要無形民俗文化財に(追加)指定
- 2005 平成17 等澗院古文書ほか蝦夷三官寺資料を
国の重要文化財に指定
- 2008 平成20 アポイ岳ジオパーク日本ジオパークに認定
- 2015 平成27 アポイ岳ジオパーク世界ジオパークに認定
- 2018 平成30 様似山道が国指定史跡に指定
蝦夷三官寺が北海道遺産に選定
- 2021 令和3 JR日高線鉄道事業(鷓川～様似) 廃止
- 2024 令和6 日高山脈襟裳十勝国立公園に指定



様似町の歴史

様似郷土館

SAMANI Folk Museum



開館	1967 昭和42日 高管内初の博物館
入館料	無料
開館時間	10:00 - 16:30
休館日	毎週月曜日 / 祝日の翌日 / 年末年始



CONTACT

様似郷土館

〒058-0024 北海道様似郡様似町会所町1番地
 TEL/FAX 0146-36-3335
 E-mail samanikyoudokan@future.ocn.ne.jp

様似町教育委員会

〒058-8501 北海道様似郡様似町大通1丁目21番地
 TEL 0146-36-2521
 FAX 0146-36-4210



様似郷土館

SAMANI
Folk
Museum



文化財 様似町の

- 重要無形民俗文化財 アイヌ古式舞踊
- 重要文化財 蝦夷三官寺等澗院関係資料
- 史跡 様似山道
- 特別天然記念物 アポイ岳高山植物群落
- 天然記念物 ヒメチャマダラセセリ
- 天然記念物 幌満ゴヨウマツ自生地

国指定

- 有形文化財 等澗院護摩堂
- 有形文化財 和助地藏尊
- 有形文化財 聖観世音菩薩像
- 有形文化財 薬師如来三尊仏像
- 有形文化財 弁財天像
- 有形文化財 南無仏太子像
- 有形文化財 等澗院古文書
- 有形文化財 矢本家文書
- 有形文化財 冬島遺跡出土資料
- 有形文化財 シヤマニ場所絵図面
- 史跡 様似山道

町指定



重要文化財 / 百万遍念珠箱



町指定文化財 / 薬師如来三尊仏像

埋蔵文化財

二十九の遺跡

北海道遺産

- 蝦夷三官寺
- 未だに伝えるアイヌと和人の関係史
- 有珠善光寺
- 様似等澗院
- 厚岸国泰寺

古文書

1806年には、蝦夷三官寺の1つである等澗院が建立されました。様似町・厚岸町・伊達市の3カ所に作られた蝦夷三官寺(さんかんじ)は、蝦夷地の和人の信仰の拠点であり、死亡した和人の葬儀とアイヌ民族への仏教布教を目的とし、背景には対ロシア政策として幕府による蝦夷地支配を示す狙いがありました。寺録(官費)によって維持管理された寺院でした。しかし明治には、「寺録通減法」に伴い維持管理が不能となり廃寺になりましたが、復興を願う信徒の要請もあり再興された北海道の吉刹です。

等澗院古文書は、開祖初代住職(秀暁)から11世住職(徳弁)に至るまでの江戸歴代住職が幕府や他寺とのやりとりを記録したもので幕府の公文書や建立の経緯が記されています。



等澗院

重要文化財 / 等澗院古文書

国指定 重要文化財

とうじゆいんごもんじよ
等澗院古文書

町指定 有形文化財 矢本家文書

様似会所支配人代理だった矢本蔵五郎は、明治政府の依頼で会所廃止後も会所に留まり物資の取引や旅籠屋、徴税なども行いました。その後、会所建物の払い下げを受け幅広く商売を始め、様似の暮らしを支えました。当時、冷遇されていたアイヌの人たちにも温情な態度で接し、全員に苗字をつけてあげるなど、和人格の取引を実施しました。「矢本家古文書」は、当時の記録と会所の経緯などが記された貴重な文献で北海道唯一と言われています。



町指定文化財 / 矢本家文書

地図

福山(現・松前町)から様似に移住した佐藤家に残された貴重な資料。松前福山城の家老・勝田伊賀守に献上するために文久元年(1861年)に作られた様似会所絵図でしたが、献上する機会がなく、手に残されていました。

海岸線の地形、親子岩などの奇岩やエンルム岬など現在と変わらない様似の風景が伺えます。海岸線には地名や川名が記載され、現在の様似の地名と一致するものも多々あります。様似山道は赤い破線で描かれています。



町指定 有形文化財

シヤマニ場所絵図面

19世紀半ば(近世後期)の様似町の西町地区から会所町にかけてを描いた絵図です。

移転をしたのちの等澗院が描かれており、文政4年(1821年)以降の様子が描かれたものと思われます。また、東蝦夷地に最初に作られた10会所のひとつである、シヤマニ会所が描かれています。エンルム岬の左には船と鉞(まさかり)や手斧をふるっている2人の職人が描かれています。かつてこの地には仮造船所もあり、江戸時代から明治時代にかけて活躍した、大阪と北海道とを結ぶ寄港地で商品売り買いした弁財船も造られていたそうです。

東蝦夷シヤマニ之景



生きもの



ユーラシア大陸に広く分布しますが、日本国内ではアポイ岳周辺でのみ生息しています。1973年に北海道大学の昆虫研究会が発見し、翌年には国の天然記念物に指定されました。5月のよく晴れた日にはアポイ岳7合目「馬の背」付近で観察が可能です。

国指定天然記念物
ヒメチャマダラセセリ

北海道固有種

オオサルシ

北海道固有種のアポイ岳を中心に様似町と浦河町に生息しています。オオサルシの中でも暗色の個体群です。鞘翅は黒紫色で、頭胸部は赤か緑色が多いです。

1970年に新種記載され、アポイ岳周辺でのみ生息している固有種のカタツムリです。かんらん岩の影響を受けています。殻の大きさは1cm程度と小さく、表面には細かい毛が生えています。



様似固有種
アポイマイマイ

様似町と島牧村でしか確認されていない珍しい形のカタツムリです(カドバリヒメマイマイ)。扁平な形をした殻が特徴です。石灰岩質の地域にのみ生息しています。



ヒメマイマイ

帯広市の大和興三記念館から寄贈された約14,000点のチョウ標本を収蔵しています。大和氏と十勝蝶の会によって収集された北海道から海外まで多種多様なチョウが揃っています。



大和コレクション
昆虫標本

くらし

北海道独特の駅通制度。江戸時代は「会所」が人馬継立、継立馬の飼育、旅籠屋の業務を担ってきました。様似会所では、婦女子のための山駕籠まで用意されていました。「会所」廃止後は「駅通所」と改称され規則と設備を整備し人馬継立、宿泊、郵便の3事業が主な仕事になりました。この制度は明治から昭和初期まで続き、北海道を開拓する上で重要なものでした。郷土館には駅通で使用された資料を展示しています。

駅通



昭和、大正、平成に使用された昔の生活用品を展示しています。洗濯機、冷蔵庫、振り子時計など昔懐かしい日用品。館内でのみ電話可能な黒電話、遊び道具(めんこ、けん玉、ヨーヨーなど)、レコードなど体験ブースも設けています。実際に触れて楽しめます♪



熊の出没が多かった開拓時代は、「熊よけ」のためにラッパを吹きながら歩いた話が残っています。登山で使用する熊鈴と違って、音を出すのが大変そうです、

熊除け
ラッパ

当時一大ブームを起こした小型映画撮影機のパティベピーカメラ。北海道に現存する3台のうちの1台です。



蹄鉄の取替えが不十分だった昔は、馬専用のわらじを用いました。



馬用草鞋(わらじ)

山



明治時代の鉄鍋(様似山道 原田宿にて出土)

寛政年間になると外国船が交易を求め北海道に次々と姿を現わすようになり、危機を感じた幕府は蝦夷地(現・北海道)の北方警備とその為の道路開削に乗り出しました。寛政10年(1798)に派遣した蝦夷地調査団の報告により、幕府は海岸通行の最大難所である様似冬島・幌満間の様似山道と幌泉(現・えりも)猿留山道の開削を重視し、着工から1年たらずの寛政11年(1799)に完成させました。北海道初の官営道路の一つです。

国指定史跡
様似山道

国指定特別天然記念物
アポイ岳



アポイ岳(国指定特別天然記念物)

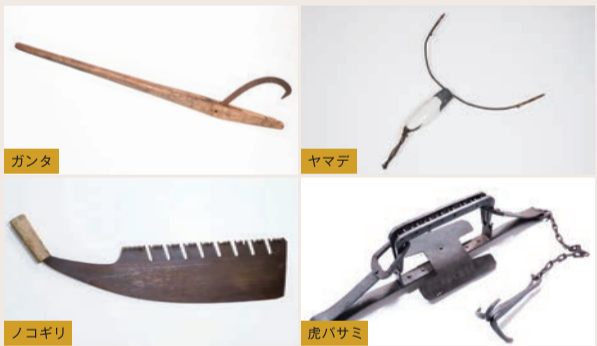
アポイ岳は、810mという低い標高ながら約80種の高山植物が生育し、しかも亜種・変種・品種を含む固有種は約30種近くに及びます。これほど、固有種が集中する地域は世界的に見てもとても珍しく、そのため、アポイ岳の高山植物群落は、北海道で6つしかない国の特別天然記念物の一つに数えられています。

アポイ岳に貴重な高山植物が生育しているのは、海に近く涼やかな気候にあるというほかに、アポイのかんらん岩が大きく影響しています。かんらん岩から作られた土壌には、植物の生育を阻害する成分(ニッケルやマグネシウムなど)が多く含まれているからです。このことが、高木などの平地の植物の侵入を防ぐバリアとなり、氷河期に南下してきた北方系の植物を特殊な土壌に適応したアポイの高山植物につくりあげたのです。こうした貴重で可憐な花を求めて、アポイ岳には毎年多くの登山者が訪れています。

産業

北海道の開拓を支えた水産や林業の道具類。現役のものもあれば、現在では姿を消した道具もあります。一見すると使用法が分からない道具もあるかも!? 館内のタブレットでは様似の水産に関する動画、クイズ、図鑑を見ることができます。

林業・水産業



金鉱山

運別(現・海辺川)の支流ポロナイ水源の近くで、寛永12年(1635)に金が発見され、寛文9年(1669)に起きたシャクシャインの乱まで幕府による採掘が続けられました。江戸時代の北海道では、鉱山を掘り砂金を採取する「山金」は珍しく、記録では様似町と今金町の2箇所とされています。鉱石を粉碎したとされる鉱山臼が発見されています。

大正初期の製錬所と鉱夫

石臼(鉱山臼)

北海道での製塩は、寛政12年(1800)頃に幕府によりはじめられました。函館奉行所の記録では、様似と根室の2箇所が最初で、大釜で海水を煮立てて塩を造り、同時に豆腐も造られていたと言います。今でも「塩釜トンネル」、「塩釜遺跡」のように地名として残っています。



製塩釜の破片

塩釜の塩焼跡

製塩所

化石・遺跡



様似町や浦河町から収集されたアンモナイト2475点に加え、ウニや二枚貝の化石など計3080点の化石を収蔵しています。化石以外では様似を中心に収集された現生の貝類標本(中津弘コレクション)1506点を収蔵しています。

様似の化石

様似町内には計29の遺跡があります。縄文時代、続縄文時代の遺跡が多いです。塩釜、観音山、エンルム岬などからは中野式、縄文式土器や石斧、鏃などが数多く出土しています。その他に、獣骨やクジラの骨も出土しています。

石器ナイフ

岬内中野式土器

町指定文化財
冬島遺跡

冬島遺跡は、昭和40年代に静内高校教諭であった藤本英夫先生と様似小学校教諭であった小笠原正明先生によって調査が行われました。その後、昭和60年代に町の郷土史研究会と様似高校教諭の小柳正夫先生と様似高校郷土史研究クラブによって調査が行われています。様似町教育委員会では、平成26年から遺跡の内容や範囲を確認して当町の歴史と文化を理解することを目的に冬島遺跡の詳細分布調査を実施しました。その結果、豊富な動物骨や骨角器が出土し、続縄文文化期初頭における日高地方で唯一確実に先史時代の貝層を伴う遺跡であることが判明しました。



冬島遺跡(航空写真)

冬島遺跡の出土物

(株)シン技術コンサル 撮影

佐藤雅彦 撮影

アイヌ文化・鉄道

儀式に使用した道具や刀、婦人の首飾りなどを展示しています。館内のタブレットで様似町のアイヌ古式舞踊、料理、伝統行事の動画を閲覧できます。

様似町に古くより伝わる木綿衣を復元したものです。

木綿衣

口縁の一部に注ぎ口がついた器。イチャルバ(先祖供養祭)などの町内の伝統行事では毎年貸し出しを実施している、現役の祭具です。

片口

採取物の切断など様々な作業に使用された小刀。当館の鞘は女性用で実用されていたものです。本体は鞘に合わせて復元したものです。植物のような彫刻があります。

小刀と鞘

2021年に廃線となった日高本線。終着駅である様似駅は現在は観光案内所やバスの待合所として使用されています。当館では当時使用されていた看板、切符、帽子などを展示しております。鉄道好きは必見です! 様似町には三井軌道(様似軌道)という鉄道がありました。内陸で切った木材や木炭を海岸に運ぶための鉄道です。現在は鉄道、線路、駅舎などは残っていないため、図面を町指定文化財として当館に収蔵しています。



帽子

日高本線

三井軌道

鉄道
日高本線 & 三井軌道